

遠野の観光振興について



荒川 栄悦 議員
(清風会)

問 いわてデステイネーションキャンペーンの現状と今後の観光については。

答 当市独自の事業は次の通りである。新観光イメージ4連ポスターの制作、市内JR各駅に歓迎横断幕制作、無料傘「カッサクくん」の貸与を始めた。JR各駅を発着点とする「駅から観タクン」「遠野物語めぐり号」「駅からマップ」の提供をしている。また、お出迎え隊、郷土芸能披露、休憩スポットの設置をした。食の祭

典「粉んなもんぐランプリ」、「春のどべっこまつり」を開催した。宮守駅では遠野商工会女性部が、二日町駅付近では遠野郷馬つこ王国ライデンングクラブがそれぞれ工夫をこらしてお出迎えをしている。今年4月の入込み数は、約3万人で、「いわてD・C」による一定の波及効果があったと考える。

問 遠野遺産を含めて今後の観光施設の整備についてどう考えるか。

答 今後の観光施設の整備は、「遠野遺産」などの地域資源を有効活用する中で取り組みたい。補助金を見直して、活用することにより、市民協働による施設整備の推進を図りたい。

問 放射能汚染の観光への

の風評被害についての考えは。

答 放射能の影響については、観光の魅力である「食」の風評被害も懸念される。既に市環境課では、市内で生産・収穫された農産物等の放射性物質濃度検査を開始している。なお、この事故による観光被害については、東京電力において個人・法人・個人事業主・農林漁業者など原子力損害について賠償を実施することとしている。

問 観光地域づくりプラットフォームについて伺う。

答 「遠野観光地域づくりプラットフォーム」の実現に当たっては、4月に供用開始した「旅の蔵遠野」を拠点と位置づけ、指定管理

者の遠野市観光協会が主体となつて、市民や、観光関係団体との連携体制を構築する中で取り組んでいる。その遠野市観光協会では、「遠野市観光協会経営ビ

ジョン」を策定し、平成24年度内の法人化を目指し、自立した経営計画及び経営戦略を策定し、足腰の強い経営を目指すこととしている。



先日オープンしたばかりのお食事処伊藤家